

# 2012 がまごおり海と風レース

兼 第45回 日本オプティミストセーリング選手権 大会枠予選

## 帆走指示書 2012.08.06

参加する艇種：(A海面) OP ①ゴールド②シルバー ④レーザーラジアル・シーホッパーSR ⑤FJ (④⑤をOP以外と言う)  
(B海面) OP ③ブロンズ

### 1. 規 則

- 1.1 (A海面)出場クラスは「セーリング競技規則 2009-2012」に定義された規則を適用する。
- 1.2 規則 61.1(a)に、『抗議しようとする艇は、フィニッシュ後直ちにフィニッシュ・ラインに位置するレース委員会艇に、被抗議艇のセールナンバーを伝えなければならない。』を追加する。
- 1.3 (B海面)出場クラスは「入門競技規則」を適用する。

### 2. 選手への通告

選手への通告はクラブハウス南口横に設置された公式掲示板に掲示する。

### 3. 帆走指示書の変更

帆走指示書の変更は、その日最初のレースのスタート 60 分前までに掲示する。

### 4. 陸上で発する信号

- 4.1 陸上で発する信号は、クラブハウス南口前に設置された信号ポールに掲揚する。
- 4.2 音響 1声と共に掲揚される『D旗』は、「予告信号は、D旗の掲揚後20分以降に発する。艇は、この信号が発せられるまで、ハーバーを離れてはならない。」ことを意味する。



### 5. レース日程

9月9日(日)	受付	8:00~9:00	
	選手・コーチ ミーティング	9:00~9:15	
	第1レースの予告信号	9:55	OP以外の艇 (A海面)
		10:00	OP ①ゴールド②シルバー (A海面)
		9:55	OP ③ブロンズ (B海面)
表彰式	17:00	※変更の場合は公式掲示板に掲示する。	

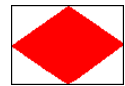
引き続きレースが行われる場合には、次のスタートが間もなく始まることを艇に注意を喚起するために、レース委員会の信号艇は予告信号の4分前までに音響 1声と共にオレンジ色旗を掲揚する。

### 6. クラス旗

A海面 = OP ①ゴールド ②シルバー 『OPマーク旗』



OP以外の艇 『F旗』



B海面 = OP ③ブロンズ 『B旗』



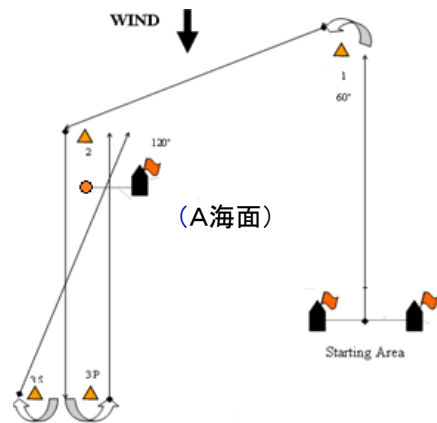
### 7. レースエリア

レースエリアは右図の通りとする。

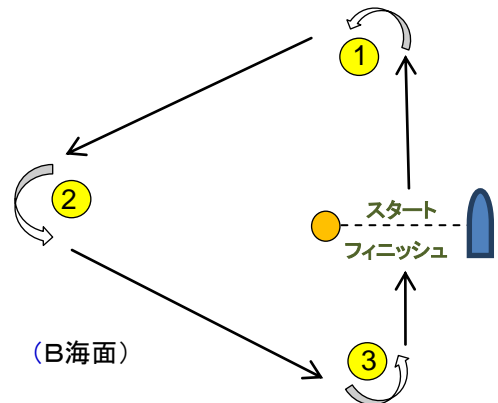


## 8. コース

### 8.1 OPの①ゴールド②シルバー及びOP以外



### 8.2 OPの③ブロンズ



## 9. マーク

- 9.1 A海面 1、2、3S、3P、は黄色円筒ブイとする。
- 9.2 B海面 1、2、3、は黄色俵型ブイとする。

## 10. スタート

- 10.1 A海面のスタート・ライン はスタートマーク上でオレンジ旗を掲揚しているポールの間とする。
- 10.2 B海面のスタート・ライン はレース委員会艇のオレンジ旗を掲揚しているポールとオレンジ色球形ブイの間とする。
- 10.3 スタート信号後4分より後にスタートする艇は、「スタートしなかった艇(DNS)」として記録される。これは付則A4を変更している。

## 11. コースの次のレグの変更

スタート後に、マーク2およびマーク3の位置を変更する事はない。 フィニッシュ・ラインについてはその位置を変更することがある。

## 12. フィニッシュ

フィニッシュ・ライン は、オレンジ色球形ブイと、レース委員会艇のオレンジ旗を掲げたポールの間とする。

## 13. タイムリミット

先頭艇フィニッシュ後15分とする。

## 14. ペナルティー方式

A海面は付則Pを適用し、 B海面は「入門競技規則」を適用する。

## 15. 抗議と救済要求

- 15.1 抗議書は、陸上本部で入手できる。
- 15.2 それぞれのクラスに対して、抗議締切時間は、最終レース終了後、50分とする。

## 16. 得点

- 16.1 付則Aの低得点方式を適用する。
- 16.2 本大会は、1レースをもって成立とし、最大5レースとする。
- 16.3 4レース以上が完了した場合、艇のシリーズの得点は、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- 16.4 レーザーラジアルとシーホッパーSRは同一艇種として扱い、ハンディキャップはなしとする。

## 17. 安全規定

- 17.1 選手は、出艇前、および帰着後すみやかに、用意された申告用紙に出艇または帰着のサインをすること。
- 17.2 レースからリタイアする艇は、できるだけ早くレース委員会またはレスキュー艇に伝えること。
- 17.3 選手は離岸から着岸まで、ライフジャケットを着用すること。

## 18. 装備と計測のチェック

艇や装備は、クラス規則と帆走指示書に従っている事を確認するため、いつでも検査される事がある。

## 19. 運営艇および支援艇

- 19.1 運営艇の標識は、次のとおりとする。

レース委員会の信号艇	海陽海洋クラブ旗
レース委員会艇	〇〇旗
プロテスト委員会艇	〇〇旗
パトロール艇	〇〇旗



- 19.2 支援艇は、海上では〇〇旗を付け、陸上・海上を問わずレース委員会の指示に従うこと。
- 19.3 支援艇は非常の場合や悪天候に対して警戒が必要で、かつレース委員会艇に『Z旗』を掲揚した場合には、レスキュー艇として救助活動に協力すること。

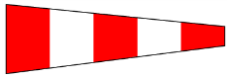


## 20. 主催者責任の否認

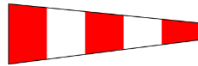
選手は自分自身の責任でレースに参加する。規則4の[レースすることの決定]を参照。また、主催団体は、大会の前後、期間中に生じた物理的損害または身体傷害もしくは死亡によるいかなる責任も負わない。

## レース信号

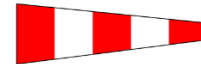
### 延期信号



↑ ● ● ↓ ●  
回答旗 スタートしていないレースを延期する。予告信号は、降下の1分後に発する。



↑ ● ●  
H旗の上に回答旗 スタートしていないレースを延期する。これ以降の信号は陸上で発する。



↑ ● ●  
A旗の上に回答旗 スタートしていないレースを延期する。本日はこれ以上レースを行わない。

### 中止信号

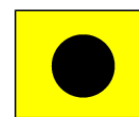


↑ ● ● ● ↓ ●  
スタートしたすべてのレースを中止する。スタートエリアに戻れ。予告信号は、降下の1分後に発する。

### 準備信号



↑ ● ↓ —  
P旗 準備信号。

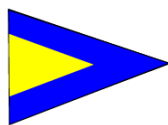


↑ ● ↓ —  
I 旗 規則 30.1 を適用する。

### リコール信号

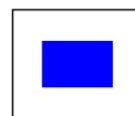


↑ ●  
X旗 個別リコール。



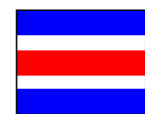
↑ ● ● ↓ ●  
第1代表旗 ゼネラルリコール  
予告信号は、降下の1分後に発する。

### コース短縮



↑ ● ●  
S旗 コースは短縮された。  
規則 32.2 を適用する。

### 次のレグの変更



-----  
C旗 次のマークの位置を変更した。

# 入門競技規則

Ver.2012.02

風向

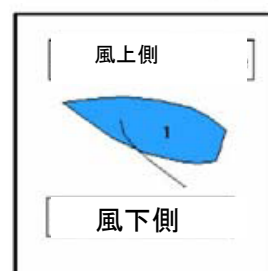


## 用語の解説

**風上と風下:** メインセールの出ている側を、艇の**風下側**という。その反対側を**風上側**という。

**ポートタックとスターボードタック:** 艇は、その風上側に応じて、**ポートタック**または**スターボードタック**にあるという。

**アドバイザー:** 競技者がルールを理解するのを助けるために、また、必要な場合には艇にペナルティーを与えるために、レース主催者に指名された人。

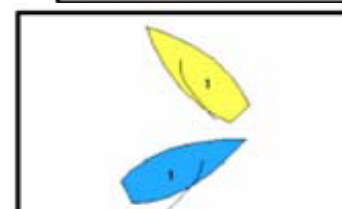
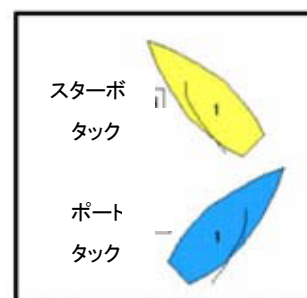


## 基本規則

1. スポーツマンシップの原則に従わなければならない。
2. 他の艇と衝突しないよう努力しなければならない。

## 艇が出会った場合の規則

3. 自分と相手艇が**反対タック**の場合、自分が**ポートタック**なら、**スターボードタック**の相手艇を避けなければならない。
4. 自分と相手艇が**同一タック**の場合、また次の場合は自分が相手艇を避けなければならない:
  - (a) 相手艇が自分の前にいる場合、または、
  - (b) 相手艇が自分の**風下側**にいる場合。
5. スタート後に、マークまたは避ける必要がある物体に自分と相手艇が近づいている場合で、相手艇がそのマークまたはその物体と自分との間にいる場合には、自分と同じ側を安全に通過するための十分なスペースを相手艇に与えなければならない。ただし、風上マークで両艇が**反対タック**の場合には、この規則は適用しない。
6. 相手艇が自分を避ける必要があるときに、自分がコースを変更する場合には、自分を避けるための十分な機会を相手艇に与えなければならない。



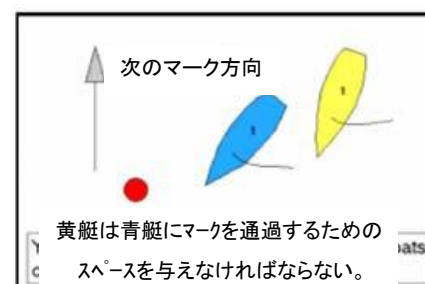
ポート・タックの青艇はスター・タックの黄艇を避けなければならない。

## その他の規則

7. スタート信号の時には、スタート・ラインより後ろにいななければならない。
8. スタート信号後は、レース主催者が説明したコースを帆走しなければならない。
9. パドリング、スカリング、ロックキング、パンピングによる推進方法の違反をしてはならない。
10. もし違反をしてしまったら、一回のタックと一回のジャイブをして一回転のペナルティーを行わねばならない。

この時は他の艇を避けていなければならない。

11. 自分または他の艇が規則に違反したと思った場合や、レース中のどんな場面でもそのとき適用される規則がはっきりと分からなかった場合には、そのとき起こったことをレース後にアドバイザーに説明しなければならない。その場合、アドバイザーは、規則に違反した艇の得点に2点を加えることがある。その違反が重大な場合には、それ以上に得点を加えることもある。



## **レース主催者の責任**

- (a) 公正で、楽しく、安全なレースを運営すること。
- (b) スタート信号の手順、スタート・ラインとフィニッシュ・ライン、帆走するコースと回航するマークについて、すべての競技者に伝えること。
- (c) フィニッシュ順位と同じ得点を各艇の得点として記録すること(必要な場合にはハンディキャップの調整をして)。
- (d) レースの規則と手順についての**アドバイザー**を指名すること。

---

## **どのような時に使うか**

この規則は、これからレースを始めようとするセーラーが、これら少しの規則だけを使って、ISAF セーリング競技規則(RRS)の多くの詳細を学ぶことなく競技できるように、この規則だけで単独で使えるように作られている。この規則は、安全な水面での小型艇のレースに適している；6メートルを超える艇のレースでは、経験のある人がそばにいて初心者へのヘルムを教えることができるのがよく、そのようなレースでの使用は意図していない。この規則は、RRSにある基本原則や基本規則に適合している。ただし、この規則は、RRSの入門でもないし、RRSの省略形でもない。

この規則は、意図して最小限になっており、RRSの多くの複雑な部分を可能な限り省略している。この規則は、これからレースを始めようとしていて、レース経験が2年未満のセーラーのために書かれている。この期間の後には、RRSのもとでレースすることを勧める。

この規則のもとでレースする艇は、専用のコースを用いるのがよく、RRSのもとでレースする艇とコース・エアやマークを共有しないのがよい。

通常のレースとは異なり、レース主催者には、マーク、コースおよびすべての関係するレース運営の事項を、口頭ですべての競技者に対して説明する義務がある。

ルール・アドバイザーの果たす役割は、ルールを教える上で極めて重要な要素である。理想的には、ルール・アドバイザーは水上に出てレースを見守るのがよいが、最低でも、アドバイザーはセーラーが陸に戻ってすぐにディスカッションに応じられるようにしなければならない。ルール・アドバイザーは、レース・オフィサーと同じ人が兼ねても良い。

規則違反に対する標準のペナルティーは、この学習段階では必然的に小さいものであり、難しい回転ペナルティーの使用を避けている。ペナルティーを与えるのはアドバイザーだけなので、レース中に自信のない競技者にありがちな重圧も回避することができる。この2点ペナルティーは、すべての誤り(スタートやコースの誤りを含む)に適用することに留意されたい。ただし、誤りによって有利になることを避けるためにペナルティーを増やすための条項も用意されている。

## **フィードバック**

この規則は「試験的」なものです。コメントや批評、提案を以下の WEB ページから ISAF に寄せて下さい：  
[www.sailing.org/contactisaf](http://www.sailing.org/contactisaf)

この規則は、必要に応じて更新され、最新版は ISAF WEB サイトで公表されます：[www.sailing.org](http://www.sailing.org)